

「令和3年度業務実績報告書 小項目評価」にかかる事前質問及び回答

資料13

小項目	自己評価	事前質問	回答
4	A	<ul style="list-style-type: none"> ・社会福祉士75%合格率の目標設定はなぜか？ ・精神保健福祉士合格率89.5%の要因は？ 	<ul style="list-style-type: none"> ・社会福祉士75%合格率目標設定は、中期計画を策定した際、直近平成28年度合格率72.7%を踏まえ、それを上回る合格率75%を設定しました。 ・将来の進路を卒業間近まで悩んでいた学生が不合格となっており、準備時間が足りなかったことが要因と考えられます。今後もさらに学生たちへのきめ細やかな指導を徹底していきます。
6	A	<p>実技や実験を伴うオンライン講義はハイブリッドで行ったのでしょうか。その時、教育効果は両者に違いはありましたか。</p>	<p>実技や実験を伴う講義については、密集を避けるため2つの教室を使用し、教員が行き来しながら対面で行いました。生物学基礎実験や有機化学基礎実験のように危険な試薬を使用する実験系の講義は複数回開講し、密集を避けました。</p>
7	A	<ul style="list-style-type: none"> ・実績評価の欄に長期にわたり開講していない授業科目の洗い出しを行った。とありますが、具体的な授業科目についてお聞かせください。その理由はコロナでしょうか？ 	<p>博士後期課程AC期間を終了したことから総括しました。その中で『保健福祉共通科目』内の『疫学研究法』『アカデミックライティング』『システム生命科学特論』の3科目において現在までの履修者がいない状況を確認しました。現在学生のニーズを把握し改正に向けカリキュラム検討委員会で議論を進めています。</p>
8	A	<p>大学初ベンチャー企業創出に向けた具体的な大学のサポート態勢はあるのでしょうか。</p>	<p>教員・事務によるプロジェクトチームの設置やベンチャー投資経験豊富なメンターを配置するなど、研究科として起業に向けた支援を行ってきました。その結果、令和4年5月にヘルスイノベーション研究科修了生が、大学発ベンチャー（研究成果ベンチャー）として起業に至りました。</p>
9	A	<p>全ての講義のカリキュラムを原則遠隔授業形式としていますか。対面授業も実施しておられ、その両者の線引きの基準を教えてください。</p>	<p>講義形式の授業の場合は原則遠隔授業としましたが、グループワークや技術の習得を伴う演習などは対面で行いました。</p>

小項目	自己評価	事前質問	回答
10	S	学外実習を学内実習に切り替えたとありますが、学内では不可能な実習内容もあるのでしょうか。	学外実習では原則、保健医療福祉が提供されている場において、患者や利用者の方々を実際に担当し、ヒューマンサービスを実践します。学内実習では模擬患者や電子カルテ等を導入したり、オンラインで現場の専門職を含めたカンファレンスを実施したり等、模擬状況を現実の場に近づけるよう工夫を凝らしていますが、複雑かつ刻一刻と変化する場や患者の状況に応じた援助の実践能力向上、実際の患者や利用者との援助的人間関係の構築、多職種連携の場への参加等に限界があります。
12	A	授業評価のUPに寄与した最大の要因は何であると思われますか。	令和2年度は新型コロナウイルス感染症の対応のため1課程のみ遠隔授業で開講しました。令和3年度は、遠隔授業と対面授業を効果的に活用できるよう、機材や設備を整備したこと、講師並びに職員の遠隔授業への対応に習熟してきたことが功を奏したと考えます。 また、多くの学生が病院等の施設に所属しているため、より感染対策上安心して学習することができたと考えます。さらに通学の負担がないことは、仕事や家庭との両立がし易かったため、満足度が高くなったと考えます。
19	A	大学説明会実施回数の増加に対して、受験者数の減少は18歳人口減が影響しているのでしょうか。	教職員ともに大学説明会へ積極的に取り組んでまいりましたが、受験者数の減少という結果になったことを考えると、18歳人口の減少による影響の他にも県内に他の公立大学が開設したことや、新型コロナの感染拡大のために、受験生に学生との交流を含めた本学をアピールする機会を持てなかったこと、保健医療福祉職のイメージが変化しつつあること等が要因として関係があるのかもしれませんが。様々な要因について現在全学入試委員会において分析を進め、広報活動の方針を再検討しております。引き続き多面的な努力が必要と考えております。
20	A	大学院受験倍率の低下の一方で、特定の研究科が伸びていることは、何か特別な原因や要因があるのでしょうか。	超高齢社会の進展や感染症への対応など公衆衛生学修士に対する社会的ニーズが増大していること、また、開設以来、教育内容、研究活動をはじめとする研究科の魅力を教職員や在学生、修了生を通じて伝えてきたことが一因と認識していますが、これまで以上に研究科の価値を高め、魅力を高めていくことが重要と考えています。
24	A	学術論文は、学内誌・和文誌・英文誌・商業雑誌・ジャーナル・学会誌等、その比率はいかがでしょうか。	評価委員から昨年度ご指摘いただいた「学術論文の質的評価」について、本学の論文を適切に評価する方法の導入を学内委員会で現在検討しております。具体的には査読の有無、和文か英文か、原著か総説かなどを区分することです。事前質問でお示しいただいた分類での集計は行っておりません。

「第1期中期目標期間業務実績報告書(見込み)小項目評価」にかかる事前質問及び回答

資料13

小項目	自己評価	事前質問	回答
11	A	大学院教育助産師課程の記述があるが、将来構想として保健師課程についてはどのように考えているかお聞かせください。	急激な少子・高齢化の進行や地域力の弱体化等、地域保健を取り巻く課題は多様化、深刻化しています。また、新型コロナウイルスの感染拡大により県内市町村の保健師不足の深刻化、健康危機管理などの新たな健康課題への対応が必要になっております。そうした中で更なる高度実践ができる保健師を養成していく保健師課程の大学院への移行をどのように実現していくかを県と調整中です。
12	A	授業評価の目標率が80%に設定されており、コロナの時期を除いてほぼ同じ結果となっている。現状維持よりも設定目標を段階的に上げていった方が、教育全体のモチベーションが上がるのではないのでしょうか。	ご指摘のとおりと考えます。令和2年度のコロナ対応から、令和3年度は感染予防対策や遠隔授業等を取り入れておりますので、目標の設定について、引き続き検討して参ります。
24	A	設定した数値目標は大幅に達成しているものの質的に把握することが不可能	評価委員から昨年度ご指摘いただいた「学術論文の質的評価」について、本学の論文を適切に評価する方法の導入を学内委員会で現在検討しております。具体的には査読の有無、和文か英文か、原著か総説かなどを区分することです。事前質問でお示しいただいた分類での集計は行っておりません。
その他		全体的に目標設定を超えた結果となっており、中期目標は達成されると思います。一方で、事務処理、教育、学生評価、教員評価、研究サポート等、将来を見据えたDX化への取り組みの詳細な記載がなく気になります。DX化についての取り組みは未定なののでしょうか。あればビジョンに具体的に示すべきかと考えます。	ご指摘の通りと拝察いたします。看護学科では、新カリキュラムに対応した模擬電子カルテ、シミュレーター、ARなどのテクノロジーを徐々に導入しておりますが、令和4年度からシュミレーションラボを設置し臨床判断気づきトレーニングを行えるようなDX技術を活用した実習を取り入れることを決定したところです。大学全体として将来を見据えたDX化への取り組みはまだ端緒についたばかりと考えております。教職員においても必要性を十分認識しておりますので、今後予算の執行やsociety5.0の動向も見据えて教育効果や研究業績の向上を実現するために引き続き検討して参ります。